

I o T電球で独居高齢者見守り = 福岡県田川市

福岡県田川市は、市内に1人暮らしの65歳以上の高齢者を対象に、I o T（モノのインターネット）を活用した見守り事業を始めた。異常を検知するとメールで家族らに知らせるI o T電球「ハローライト」を自宅に設置するヤマト運輸のサービスの料金を市が負担するもので、先着50人が無料で利用できるようにした。

ハローライトが24時間、電球の点灯・消灯を確認できなかった場合、通知先として事前登録した高齢者の家族や友人らにメールで異常を通知する仕組み。通知を受ける「見守る側」の人は市外在住でも可能で、通知先は三つまで登録できる。通知は同社のサービスセンターにも届く。

通知を受けた家族らが、電話したり訪問したりして安否を確認する。駆け付けることができないなどの事情がある場合は、サービスセンターを通じて依頼すると、同社のスタッフが代わりに高齢者宅を訪問する。その際、必要に応じて地域包括支援センターなどにも知らせる。

実施期間は来年3月31日まで。サービスを利用する高齢者に満足度などを聞くアンケートを実施し、事業継続の必要性を検討する。

（2022年6月2日／官庁速報）

民間など6団体と高齢者見守り協定 = 東京都小金井市

東京都小金井市は、高齢者の安全確保と見守りのために必要な情報を提供してもらえるよう、民間事業者など6団体と「高齢者等の見守りに関する協定」を締結した。相手先は、宅配など市民生活に密着した事業を展開している事業者で、異変に気付いた際は市に連絡する。必要と判断した場合は、警察署や消防署などへ直接通報してもらうこととしている。

締結した団体は▽都住宅供給公社▽野村不動産ライフ&スポーツ▽まごころ弁当府中国分寺店▽みゆき亭一など。

見守り協定はこれまでも都水道局や郵便局、新聞販売店などと個別に結んできたが、今回は市ホームページや広報誌などで広く参加を募り、応募を受け付けた。

対象とする高齢者は主に65歳以上を想定。同市は、マンションなどが立ち並ぶ東京郊外のニュータウン地域にあり、高齢化率は1月1日現在で21.4%。全国平均の28.9%（2021年10月1日現在）に比べて低い。今後上昇が予想される。市は協定締結団体をさらに増やしていきたいとしている。

（2023年2月7日／官庁速報）

スマート水道メーターで実証実験 = 群馬県前橋市

前橋市は12月から、水道の検針を遠隔地から自動で行う「スマート水道メーター」の実証実験を始める。冬季に降雪量が多く検針時に負担が大きい赤城山の山頂近くの店舗など59軒が対象。期間は2025年3月までを予定しており、正確性や通信状況、コストなどを検証する。

スマート水道メーターは、携帯電話の通信網を使って各戸の水道利用状況をデータセンターに送信する仕組み。降雪量の多い地域やオートロックマンションなど、特に検針が難しい地域・施設で業務の省力化や効率化が期待される。

市水道局によると、通常の検針は地下にあるメーターの数字を検針員が確認して行う。今回の実証実験の対象となる大洞地区は、雪が降っても水道使用量を地上で確認できる「電子隔測メーター」が設置されており、通信機器を接続するだけでスマートメーター化が可能だという。

実証実験では、正確性や季節ごとの通信状況を検証するため、メーターの直接確認も並行して実施する。今後は、オートロックマンションや工場などへのスマートメーター導入も検討し、将来的には、水道使用量の見える化や高齢者の見守りといった市民サービス向上にもつなげたい考えだ。

（2023年9月1日／官庁速報）